

平成 19 年度 グループ・プロジェクト研究計画書

(フリガナ) 氏 名	(オオト トモコ) 大戸 朋子	研究科 センター等	知識科学研究科
		講座名	社会システム構築論講座
		指導教員	小林 俊哉
研究課題	野々市町のケータイ・リテラシー学習経験をもつ 携帯電話新使用学生の利用実態調査		
研究目的	<p>ケータイ・リテラシー教育を受けた小・中学生が、その後高校においてどのような携帯電話利用をしているのかを明らかとする。</p> <p>また、ケータイ・リテラシー教育を受けていない他地域の学生と、ケータイ・リテラシー教育を受けた学生とでは、携帯電話に対する危機感についてどのような意識差があるのかを明らかにする。</p>		
研究方法	<p>野々市町区内の高校生のケータイ利用実態調査。</p> <p>野々市町区内の高校に通う学生を対象としたインタビュー、アンケート、また文献レビュー、等。</p>		
研究の特色・ 意義	<p>野々市町は、全国でも珍しく小・中学校からケータイ・リテラシー教育を行っている地域であり、本研究は、地域と密着した事例研究としての特色を持っている。</p> <p>また、本研究課題の関連では能美市からプロジェクトの要請の前例があり、非常に需要のある研究であることが判明している。本研究では野々市町の調査に力点を置き、今後の野々市町に携帯電話対策に対する何らかの示唆をもたらすことが出来るのではないかと考える。</p>		
期待される 成果	<p>野々市町区内で行われているケータイ・リテラシーが実際の使用段階において有効性があるのかどうか分かる。</p> <p>本研究での結果を、野々市町区内で行われているケータイ・リテラシー学習にフィードバックさせ、今後の学習内容を充実させる。</p>		